

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「暖かき人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A: ほぼ達成 (90%程度) B: 概ね達成 (70%程度) C: まだ不十分 (50%程度) D: 方策の見直し (30%以下)

評価項目	評価の具体項目	年度当初			評価結果(10月)			最終評価	
		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起 ○授業の質の更なる向上 ○資格取得率の向上	○不登校傾向等により学習の空白時間を有する生徒も多く、基礎学力の定着(主に英語・数学)が充分とはいえない。 ○生徒を引き付ける授業の工夫が必要。 ○漢字検定3級以下合格率36%、準1級1名、2級1名、準2級2名合格。 ○パソコン検定3級以下合格率42%、2級1名、準2級2名合格。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開が図れる。 ○生徒の情報共有し、授業の質向上のために、職員自己研鑽が日々行われる。 ○漢字検定およびパソコン検定3級以下の合格率が50%以上、かつ各種検定の上位級(準2級以上)の合格者数を増やす。	○入学時から、試験及び検定のスケジュールを念入りに確認し、いつ何をすべきかを理解させる。 ○支援が必要な場合、どのようなサポートがあれば意欲になれるのかを本人と確認を取りながら進めていく。 ○担当教科だけでなく、教科横断的な視点で、教員同士連携を取り、授業にいかす。 ○過去の合格者数を掲示し、検定試験に向けての意欲を高める。	○前期試験の予定を入念に確認することで、計画的に学習に取り組みやすくなった。 ○レポート用紙をB4からA3へ、必要な生徒にはルビ有の対応をした。 ○午後の活動の授業(体育・選択)において、興味や経験のなかった生徒も、教師が中心になってコミュニケーションを図り、楽しく活動に取り組むことができた。結果として「全国専修学校体育大会フットサルの部第3位」「倉吉打吹まつりWASSO第3位」を獲得できた。 ○国語と総合、広告と家庭科等、複数教科担当のメリットを活かし、教科横断的な取り組みができた。 ○合格者の掲示ができていない。漢字検定3級以下合格率18/35人51%。準2級合格者2名。(R1.6)パソコン検定3級以下合格率19/34人55%。合格者2級1名、準2級2名。	B	○引き続き、予定を入念に確認し、レポート用紙はA3で、ルビが必要な生徒にはルビ有の対応をする。 ○体育にダンスの選択肢を増やし、生徒の興味をより引き出していく。 ○他教員との連携をさらに密にする。 ○玄関に上位級(準2級以上)の合格者を掲示し、生徒のモチベーションアップを図る。		
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上 ○積極的な挨拶の定着を図る。 ○清掃活動の習慣化校内の清掃等、環境整備が十分に行われている。	○ルールを守りにくい生徒は数人だが固定化されている。 ○集会やクラスでの挨拶は向上している。が、駅や玄関先での挨拶は個人差が大きい。 ○清掃場所を固定化することで、人任せにする生徒も減った。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣が身に付いている。 ○挨拶をする習慣が身に付いている。 ○自らが率先し毎日清掃活動を行っている。	○固定化された生徒について服装検査日に関わらず、指導を継続する。 ○職員が個別に名前を呼んで継続的に挨拶をする。 ○協力して清掃することが難しい生徒は、掃除場所を固定化し責任を持ってできるような環境を作る。	○服装検査日にひっきり、週明けに欠席する生徒がいる。 ○毎朝の玄関での職員の挨拶ができていない。 ○掃除時間に音楽も活用し、みんなで協力する環境を作った。欠席者の掃除場所を生徒同士で補い合うことができるようになった。	C	○毎朝、玄関先で職員が挨拶と共に服装チェックをする。服装検査1週間前には、引っかかりそうな生徒には声をかけておく。 ○毎朝の玄関での職員の挨拶をしていく。 ○継続して、みんなで協力する環境を作り、欠席者の掃除場所を生徒同士で補い合えるようにしていく。		
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り ○クラスでの仲間作り	○保護者アンケートでは、90%の保護者が学校に対し「相談できる」「理解してくれている」と解答。 ○コミュニケーション能力・語彙力の低い生徒がみられる。	○生徒同士、生徒・保護者と職員同士が認め合い何でも話せる雰囲気がある。 ○周囲を思いやる言葉使いができる。	○保護者アンケートの継続。 ○「ソフトなタペ」の継続。 ○生徒への目配りと授業担任との情報交換により生徒の状況を把握する。また、生活や授業の中でコミュニケーションについて伝えていく。	○保護者アンケート1月実施予定。 ○「ソフトなタペ」は継続しているが、参加者が固定化されつつある。 ○荒い言葉を使う生徒は減っている。人との距離感をうまく取れない生徒が増えている。○勉強室を利用する生徒が固定化され、増えつつある。	B	○予定月にアンケートを実施する。 ○「ソフトなタペ」に参加したことのない人に足を運んでもらうため、イベント(ヨガ等)を企画する。 ○個人面談で生徒の困りごとを確認する。トラブルがあった場合はその都度どうすればよくなったのかを確認する。 ○授業毎に教室に戻れる工夫をし、声かけをする。		
キャリア教育充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の更なる育成 ○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進 ○進路実現に向けての早目の具体的な行動化 ○ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	○視野が狭く、偏っていると同時に職業に関する知識が少ない。 ○自己理解が乏しく、なりたい自分が見えていない生徒が多く見られる。 ○漠然とした目標のため具体的な行動を起こせていない生徒がみられる。 ○実力と目標とのギャップがみられる。	○生徒が幅広い選択肢の中から進路目標を見つけ、その実現のために日々努力している。 ○自己を理解し、理想の自分を見つけている。 ○自らの進路について真剣に考えることで、具体的な行動を起こしている。	○学校見学、出前授業、職業人講話の提供。生徒にも希望職種アンケートを実施する。 ○進路研究の時間を増やし、自己理解の時間を意図的に作る。 ○いつまでにならなっていたのかのイメージを具体的に持たせ、計画的に動けるようにする。(オープンキャンパス、資料請求、求人検索、面談練習等) ○ボランティア活動の啓発、案内等情報提供することで生徒の興味関心の幅を広げる。	○アンケート未実施。 ○進路や習熟の時間を使って、個人面談や自己分析、自己理解をはからせることができた。 ○自分の理想のスケジュールを立てさせることで、春休み・夏休みを活用して、オープンキャンパスや職場見学に行かせることができた。*進路決定数:就職0/11名、進学6/10名 ○地域イベント活動、小学生と関わる活動、高齢者施設での活動、清掃活動等、情報を提供することで興味のある分野へのボランティア参加を促すことができた。	C	○アンケートを実施する(1月予定) ○3年生は自分事として進路について考えることができていますので、自分の計画で引き続き動けるように促していく。 ○1、2年生においても、進路調査を定期的に行ない、早い段階で次の進路を明確にさせていく。 ○今後も地域イベント活動、小学生と関わる活動、高齢者施設での活動があるので、情報提供、参加促進を行なっていく。		